

ジェンダー平等について

長野県上田染谷丘高校 1年2組 氏名小山英輝

この課題に関わるSDGsの番号

5 ジェンダー平等を
実現しよう



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

テーマ設定の理由

同性が好きな人、見た目と心が違う人など常識からちょっと違う人たちは少数派なため今の社会ではあまり好かれていない印象を受ける。そのせいでそういった人たちはとても生きづらい状況に置かれていたが、同性愛者の結婚を認めたりと近年LGBTQに対する意識が強くなったと思ったので、LGBTQに関する企業や社会の取り組みが気になったから

現状

LGBTQに該当する人の割合は日本の**人口の3～10%**と言われており

2021年5月にP&Gジャパン合同会社が日本全国15歳～69歳の5,000人を対象に実施した調査によると、全体の9.7%がLGBTQの当事者、そのうち約半数の割合で44.9%が「自分らしく生きられない」と生きづらさを感じているようでした。

課題

- LGBTの多くは思春期に気づくケースが多いため、個々の生徒の発達の段階に応じた指導、保護者や国民の理解、教員の適切な指導の確保が必要。

同姓婚が認められないことはパートナーの遺言がないと遺産相続ができない、安定した環境で子どもを育てることが難しいなどの困難がある。

解決策

- ・生徒の発達段階を踏まえたものになるか、保護者や国民の理解を得られるかなどの観点から、慎重に検討し、配慮は指導内容ではなく個別カウンセリングで対応をするなどを行う。

海外に目を向ければ、同姓婚を認める国や結婚の代替になる制度を設けている国もあり、日本と同様の先進国に多く見られるため海外の動きや制度も踏まえた上で、慎重な議論と対応を模索していく。

10代からの提言

同性婚などは課題が山積みであり、すぐにできるようなものではないが、性別の記入をする場面で「どちらでもない」の欄をもうけたり、お店のコーナーなどで、男性向けや女性向けなどの片方が入りずらくなってしまうような言葉をなるべく使わないなどの小さなところから変えていくべき。

感想

調べてみるとLGBTQ当事者の半数近くが今の生き方に満足していないということがわかっておどろいた。確かに今の自分の心はそのままに身体がかわってしまったらどれほど行きづらくなるかと思うとこの現状に納得できる。なので、すこしでもLGBTQ当事者たちが自分らしく生きていけるような社会になれるように協力していこうと思った